

校長室からのお知らせ

7月16日 NO.15

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野武志

夏休み

1学期も残り3日間となり、夏休みが近づいてきました。夏休みといえば、スイカや花火、海にプール、冷やし中華やそうめん、かき氷にアイスクリーム、ヒマワリやアサガオ、猛暑や怪談など、思いつく言葉は数多くあると思います。

ただ、子どもたちにとって「うれしい」と言えないのが、夏休みの宿題になるのではないのでしょうか。「夏休みの友」や「夏の友」と呼ばれる冊子や読書感想文、自由研究や観察日記、習字や工作や絵など、私にはいい思い出がないものばかりです。計画的に進めなければいけないと思いつつ、「まだ、7月だから大丈夫。」や「まだ、夏休みは半分残っているから大丈夫。」や「まだ、一週間あるから大丈夫。」など、勝手な理由をつけて先延ばしにして8月29日ごろから焦って苦しんで怒られて反省しても、毎年同じことを繰り返していた記憶しかありません。「植物の観察記録」や日々のできごとを簡単にまとめて書く「1行日記」など、毎日しなければいけない宿題を8月の終わりにやろうというのが完全に間違っているわけで、今思い出しても赤面するほど、無計画でダラダラと夏休みを過ごしていました。

有名なことわざにも、「今日できることを明日まで引き延ばすな」というのがあります。子どもの頃は宿題から、大人になってからは仕事から逃げることをだけを真剣に考えてきた私のような人間にとっては、ズキンと心に突き刺さる格言です。

ところが、藤子不二雄[Ⓐ]さんの座右の銘である「明日にのばせることを今日するな。」の言葉を見つけて、少しだけうれしくなり調べてみました。様々な国で昔から言われていることわざだそうで、「急いでしなくてもいいことは後回しにして、毎日楽しく過ごすことが大切だよ。」という考え方（ほかの解釈もたくさんあります）のようです。ただ、詳しく調べてみると「今日やるべきことを今日中にきちんとやり終えたうえで、明日にしてもいいことを供する必要はない。」という深い意味も見つけ、宿題や仕事を先延ばしにすること自体がやはり間違っていることを、改めて思い知らされました。